生活の工夫カード (31)

治療中の性生活について

患者さんが感じる不便さには

「治療によって性欲が低下した」
「治療によって以前のような性生活が送れない」
などがあります。

原因

・がん治療により体や心にストレスがかかり、性欲が減退することがあります。
・男性の場合、直腸癌や前立腺癌など骨盤内の手術による神経損傷、骨盤内の放射線照射によって勃起・射精障害がおこる場合があります。
・女性の場合、卵巣癌や子宮癌の手術後、抗がん剤治療やホルモン療法中、膣への放射線照射後に女性ホルモンの減少や粘膜の損傷により性交痛を感じやすくなることがあります。

相談窓口

気がかりなことがありましたら、**主治医**や**看護師**または**がん相談支援センター**にお尋ねください。

治療による性機能障害への対処

＜勃起・射精障害＞
治療前に主治医から勃起障害の有無について説明を聞きましょう。治療後は身心の回復に努め、経過をみて主治医とご相談ください。

＜性交痛＞
膣内の分泌物が減少している場合は、水溶性膣潤滑剤ゼリー（リューブゼリー®など）を使用することもできます。
水溶性膣潤滑剤ゼリーは薬局で購入できます。

性交時の注意事項

抗がん剤治療による血球減少時期には、感染のリスクが高まることがあるため、性交を控えましょう。血球が回復すれば問題ありません。また、抗がん剤治療中は胎児に影響があるため避妊をしましょう。

パートナーとのコミュニケーションを大切に

手をつないだり、抱きしめたり、キスをしたり、添い寝をするなどのスキンシップをとったり、お互いの気持ちを素直に話し合うこともたいせつな愛情表現です。いきなり性交を試みるのではなく、パートナーと相談しながら新しい性生活の形を見つけていきましょう。

国立がん研究センター中央病院看護部　2025.5